

○「地域と連携して子どもたちを育む施設」

・地域と学校をつなぐ「学びの森」：校舎の周囲の余白を地域の余白を地域のみんなが使える公園のような「学びの森」として考えます。地域の方が日常的に使う場所と学校とが連続することで、人々の能動的な学校とつながりを育み、地域のみんなの学校として親しまれる環境とします。

・地域と混ざり合う：「表現の広場（大階段）」と連続するように設け、地域イベントでも活用できるような構成として、**町全体と連携や協働**しやすい校舎となり、まちづくりイベントとの共同展開も可能となります。開放時には、「**まちの図書館**」として、**地域の方々も利用可能な環境**とします。

・児童と来校者（地域の人）の動線とセキュリティ：1階の「表現の広場（大階段）」に面した遊戯室を設け、大階段と一体的に利用可能とし、アクティブな子どもたちの放課後活動の場（児童クラブ）となります。出入口が森（公園）と一体となることで、地域の目に見守られた環境となります。また、**森（公園）が送迎時の保護者待機場所**となり、先生、学校関係者と保護者との**交流の場**にもなります。

・**道具の開放（地域共創の場）**の提案（アイデアの一例）：学校にある道具を地域に開放する事も可能と考えます。理科室、図工室、家庭科室、音楽室など通常準備室で保管される**道具を廊下面に展示するように配置**し、子どもたちの日常的な好奇心を誘うと共に、地域の方がボランティアなどで使って見せる活動を行ってはいかがでしょうか？地域の方々の知恵と道具を共有することで、子どもたちと先生、地域の方をつなぎ、「**地域学校協働活動**」として、展開できる場づくりのアイデアをご提案します。



○「個別最適で効果的な学びを可能とする施設」

・多様な学習内容、学習形態が可能な施設：将来のクラスの増減に対して容易にゾーニングを変更できるよう、連続的に配置したクラスルームとフレキシブルなスペースを設けます。  
 ・**アクティブラーニングを促す環境**：S(2～5人)/M(5～10人)/L(10～30人)/XL(30～250人)の**4つのサイズ**の多様な大きさの室を設け、利用人数と特性に応じて、チームティーチングや、個別学習、少人数指導、グループ学習、複数学年での学習など多様な学習ニーズに対応できる環境とし、相互に連続することで、児童の能動的な学びを喚起する空間構成とします。

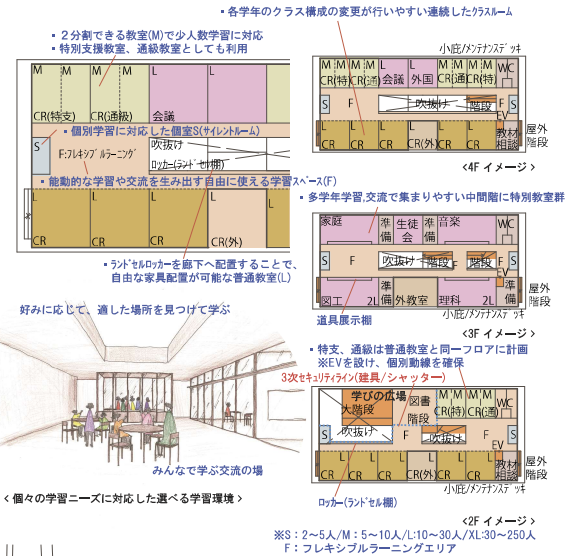
・**個別最適な家具配置**：ランドセルロッカーを廊下へ設けることで、多様な向きや集まり方を可能にし、多様な机配置が可能な平面計画とします。  
 ・成果発表の場としての**表現の広場**（大階段）：1階に、学びの森とつながる大階段を設け、講演や発表が気軽に行いやすい環境とし、学習のインプット、アウトプットがシームレスに行える場を作ります。  
 ・ICTを活用した選べる、多様な学びの場：ICTを積極的に取り入れ、**校舎全体にアクセスポイント**を設けるとともに、各室には電子黒板やプロジェクターが映写できるホワイトボードなどを整備し、児童の能動的なコミュニケーション能力を育む環境とします。また、将来的なコロナ禍と同等の状況が起こる事を想定し、**オンライン教育**等にも対応した設備環境を整えます。  
 ・学校全体がクリエイションの場：表現の場となる創造性を発揮できる自由な学舎校舎全体を「まちの美術館」としてとらえ、**移動空間を「ギャラリー」、教室を「創作のスタジオ**」として考え、創造と表現がにつながる校舎とします。  
 ・地域と生徒、高学年と低学年、先生と児童など多様な交流：南北の教室群に挟まれた中央には**能動的な学習を促すフレキシブルなラーニングエリア**を設置し、児童同士、先生と児童、地域の人の交流の場を整えます。

○「特別支援教育を可能とする施設」

・障害のある児童とない児童とともに学ぶことのできる連続性のある配置計画  
 特別教室、通級教室は北側、普通教室は北側としてゾーンを分けながら、同学年のクラスルームと同じフロアに計画することで、特別支援教育と一般教育とが共存できる**インクルーシブ教育を実現する学校**とします。  
 ・室を分割できる作りとすることで、**利用状況に応じて少人数学習に対応した室**（サイズM）として、一般教育でも活用できる構成とします。  
 ・障害種別に応じて指導内容の調整が行いやすい、**場所を選べる学習環境**：S/M/L/F(フレキシブル)の多様な大きさの室を設けることで、人数に応じた落ち着きのある室環境を整えます。  
 ・特別支援学級を必要人数の変化に応じて設定できる環境  
 連続した大中小の室がまとまりを作りながら配置されることで、個別学習室の設置、小集団による指導ができる**選択性とフレキシビリティのある教室群**とします。  
 ・児童の特性に合わせて選べる環境  
 特別支援クラスや通級指導は、児童の特性に合わせて、使用する室の大きさやオープンorクローズド、静～動といった**環境を選べる**ことができ、特別支援教育と一般教育とが共存する事ができる**インクルーシブ教育を実現する学校**とします。

○「学習環境や周辺環境に配慮した計画」

・安全、安心なセキュリティゾーンの設定と完全な歩車分離の動線計画  
 1次セキュリティラインを明確に設定し、境界沿いに緑地帯、塀、ゲートを設定します。2次セキュリティラインを建物外周部、3次セキュリティラインを建物内開放エリア/非開放エリアで形成します。外部の森として開放する場所はゲートを限定し、開放時間を制限することで、**開放とセキュリティを両立**させます。歩行者動線と車動線は放課後の送迎も含めて完全に分離させ、安心安全な通学動線を確保します。  
 ・新校舎をコンパクトに中央へ配置することで、建物周囲に余白が生まれ、**地域民家とのバッファゾーン**を作り、地域民家の日照を確保、騒音の低減、プライバシーの確保、景観との調和など、周辺環境へ配慮した計画とします。  
 ・自然を感じられるインテリア  
**色彩はアースカラー**を基本とし、**温もりを感じられる木を主体**としたインテリアデザインとします。**自然素材に触れて育つ**ことで、心に環境意識を育むことのできる校舎とします。  
 ・災害時（特に水害対策）のBCP対策として、受電設備などのインフラ関係の機械室は中2階に設置し、インシャルコストを抑えながら、災害が起きた場合でも**避難施設として建物機能が維持できる校舎**とします。  
 ・工事期間中の学習環境の継続：児童の学習や周辺地域への影響を抑えた工事工程計画  
 既存校舎への通風、採光を確保しながら、敷地中央部へコンパクトに配置された校舎とし、グラウンドや体育館、プールへのアクセスを確保することで、**学習環境の継続性を維持**し、かつ新校舎の建設場所と地域民家との距離を確保することで、**工事期間中の周辺への騒音やプライバシーに配慮した工事工程計画**とします。また、コンパクトな工事ヤードとすることで、運動場利用の制限を最小限に抑えながら、安全な通学動線と学校へのアクセスを確保します。



○概算工事費（税込）

- ・建築工事費（外構込み）： 1,510 百万
- ・電気設備工事費： 220 百万
- ・機械設備工事費： 330 百万
- ・EV工事費： 40 百万
- ・総工事費： 2,100 百万

※約2億円の工事費削減が可能です。